

中国赴日本国留学生予備学校における 博士プログラムの日本語教育

横田 淳子

(1999.10.29 受)

1 はじめに

中国赴日本国留学生予備学校（以下、予備学校）⁽¹⁾では今年創立20周年を迎え、8月には国内外の関係者を招き盛大な記念式典が行われた。1979年、予備学校は「日中両国の政府間文化教育交流の協議によって」⁽²⁾、中国政府が日本に派遣する留学生のための日本語予備教育機関として東北師範大学に設置されたが、東京外国語大学では予備学校創立当初からその日本語予備教育に教師を派遣し、教科書を作成し⁽³⁾、支援してきた⁽⁴⁾。

筆者は今年度2月22日より9月10日まで基礎日本語教師団団長として中国に派遣され、予備学校での日本語教育に当たってきた。今年度の日本語教育プログラムをできるだけ詳細に報告し、課題を記すことによって、今後のプログラムの改善、発展に寄与できればと考える。

2 予備学校の日本語教育プログラム

この20年間で予備学校も変わり、東京外国語大学が支援してきたプログラム自体も変わってきた。予備学校が創設された1979年には理科系学部留学生を対象として予備教育を行っていたが、その後、大学院修士課程進学予定者、さらに博士課程進学予定者及び博士課程修了者と、学歴と年齢が引き上げられ、文科系分野を専攻する学生も対象になっていった。また、予備学校が対象とする学生の種類も大幅に増え、それにしたがってプログラムも増加し、現在では日本語教育に関しては以下の4つのプログラムを持っている。

(1) 博士プログラム

中国教育部と文部省の共同プロジェクトによる予備教育プログラムで、進学博士コースと修了博士コースがある、ほぼ全員が予備教育修了後日本に留学する。学生数は約100名である。

東京外国語大学が関わっているのはこのプログラムである。

(2) 新疆プログラム

新疆ウイグル自治区政府から派遣される学生が対象の1年コースで、日本の私立大学との協定によって留学する、予備教育修了後すぐに留学できるとは限らないようである。学生数は25～35名である。

(3) 三類奨学金生プログラム

日本語・日本文化研究生、教員研修生、専修生（専門学校への進学希望者）を対象とする。約70名が在籍している。

(4) 進修プログラム

私費留学を希望する学習者を対象とし、学外からの社会人が多い。社会人に対する再教育プログラムとしての位置付けがあり、近年、中国社会の改革に伴い受講生が増え、現在約200名が登録している。

これらのプログラムの授業は中国側教師陣（教授5名、助教授7名、講師12名）⁽⁵⁾のほかに日本から派遣される日本側教師陣も担当している。(1)の博士プログラムは文部省及び国際交流基金から派遣の教師が例年担当している。(2)の新疆プログラムは青年海外協力隊の隊員が、(3)と(4)のプログラムは日中技能者交流センターからの派遣者および個人契約者が今年度は担当した。

3 博士プログラム

博士プログラムは、1997年度から大学院修士課程修了者を対象とする進学博士コース（11か月）と博士号取得者を対象とする修了博士コース（6か月）の2コースをもっている。それぞれのコースは予備期、前期、後期の3つの学期に分かれている。

予備期は中国側教師が全面的に教育にあたり、このプログラムのために特別に派遣される日本側教師はいない。前期には日本側の「基礎日本語」教師6名が中国側教師と協力して「基礎日本語」いわゆる日本語教育を行う。このプログラムのための日本側教師として毎年文部省から3名、国際交流基金から3名が派遣されている。しかし、前期終了時点で「基礎日本語」教師6名のうち、文部省派遣1名と国際交流基金派遣2名の計3名は日本に帰国する。

後期には、残りの日本側「基礎日本語」教師3名が中国側教師と一緒に進学博士、修了博士それぞれのコースの日本語教育を引き続き行う。これらの「基礎日本語」教師のほかに、化学、物理、電気、機械、生物、政治などを専門とする大学教官が「専門日本語」教師として日本より派遣され⁽⁶⁾、日本語を使って専門の

講義、ゼミ、情報処理の授業を行う、これらのゼミや授業は進学博士コース、修了博士コースの別なく一緒に行われる。

また、日本の大学では英語の文献等がよく使われるということから、英語教育が必要であると見做された学生には英語の授業が用意されている。このほか、予備期と前期には愛国教育として近現代史の授業や体育も時間割に組まれている。

4 基礎日本語教育

4-1 概要

今年度の進学博士コースと修了博士のコースのうち、「基礎日本語」教育の概要は以下の通りである。

	進学博士コース	修了博士コース
在籍予定者 実在籍者	40名 51名	56名 47名（途中辞退者1名） 最終的には46名
学 生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修士号取得者 ・ 日本の大学院博士課程に進学し博士号取得を目指す ・ 最新職歴は、助手、講師、助教授、研究員、医師など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博士号取得者 ・ 日本の大学院で研究 ・ 最新職歴は、研究員、講師、助教授、教授、医師など
予 備 期	98年10月12日～99年 1月22日 約15週 週20時間 中国人教師による授業	99年 3月1日～ 4月 2日 約 5週 週26時間 中国人教師による授業
前 期	99年 3月1日～ 6月25日 約16週 週26時間 中国側担当：週10時間 日本側担当：週16時間	99年 4月 5日～ 6月25日 約12週 週28時間 中国側担当：週10時間 日本側担当：週18時間
後 期	99年 7月11日～ 8月27日 約 7週 週12時間 中国側担当：週 6時間 日本側担当：週 6時間	98年 7月11日～ 8月27日 約 7週 週16時間 中国側担当：週 8時間 日本側担当：週 8時間

最終到達目標	日本の大学院に進学し、研究活動 を円滑に進め、論文作成、発表な どを行うために必要な基礎日本語 の習得（日本語能力試験2級相当）	日本の大学院で研究活動を行い、 日本人研究者と意思の疎通を行う ことのできる基礎日本語の習得 （日本語能力試験3級相当）
使用教科書	国際交流基金日本語国際センター編 『日本語かな入門』 東外大センター編 『中国人のための 初級日本語（上） （下）』及びその副教材 『中級日本語』及びその副教材	国際交流基金日本語国際センター編 『日本語かな入門』 東外大センター編 『中国人のための 初級日本語 （上）（下）』及びその副教材
終了試験結果	・日本語能力判定試験2級 51名全員合格（合格6割以上得点） ・日本語能力判定試験1級（希望者のみ） 51名全員合格（合格7割以上得点）	・日本語能力判定試験3級 46名全員合格（合格6割以上得点）

4-2 授業担当教師および担当期間

日本側教師	横田淳子（東京外国語大学）	3月～8月	団長
	渡部裕子（国際学友会日本語学校）	3月～6月	
	小森和子（国際学友会日本語学校）	3月～6月	
	衣川隆生（筑波大学）	4月～6月	
	新内明子（関西国際学友会日本語学校）	4月～8月	
	松田みゆき（東京外国語大学）	4月～8月	
	中川経治（日中技能者交流センター）	10月～1月	（予備期）
中学側教師	孫長虹	10月～8月	
	高在学	10月～8月	
	高 富	3月～8月	
	劉桂萍	3月～8月	
	杜玉良	10月～1月	（予備期）
	董春琪	10月～1月	（予備期）
	金英淑	3月～4月	（予備期）
	謝忠宇（助手） ⁽⁷⁾	2月～8月	

4-3 授業時間

前期の始業時間は、1、2時間目を続けて行い100分授業にすることにより、通常より少し遅い7時50分となった。3時間目以降は語学授業の特性を考慮して50分の授業に10分の休みとなった。

- 1、2時間目：7時50分～9時30分
- 3時間目：9時40分～10時30分
- 4時間目：10時40分～11時30分
- 5時間目：13時30分～14時20分
- 6時間目：14時30分～15時20分
- 7時間目：15時30分～16時20分

後期の始業時間は前期と同じ7時50分であったが、ゼミや講義も入ることからすべて100分授業となり、以下のように修正された。

- 1、2時間目：7時50分～9時30分
- 3、4時間目：9時45分～11時25分
- 5、6時間目：13時45分～15時25分
- 7時間目：15時40分～16時30分

5 進学博士コース

5-1 予備期（1998/10～1999/1）

① クラス編成と担当

学生は10月に入学した段階で、中国側教師によって、年齢、性別、出身地、日本語力などの点でなるべく均一になるように2つの組に分けられた。その結果、1組は25名（女性8名、このうち1名は日本語教師であるために「基礎日本語」の授業は免除された）、2組は26名（女性8名）になった。6年以上の日本語学習者は6名であった。学生の年齢は26歳から35歳まで、専門は文科系13名、理科系38名であった。

[導入] と [練習] は両方ともに中国人教師が、[会話] は日本人教師が以下の2クラスで行った。

- 1組：孫長虹・杜玉良・中川経治
- 2組：高在学・董春琪・中川経治

曜日		月			火			水			木			金		
時 限		12	34	56	12	34	56	12	34	56	12	34	56	12	34	56
一 班	科 目	日 語 導 入	日 語 練 習		日 語 導 入	日 語 練 習		日 語 會 話	日 語 導 入		日 語 練 習	日 語 導 入		日 語 導 入	日 語 練 習	
	担 当	孫	杜		孫	孫		中 川	孫		杜	孫		孫	杜	
二 班	科 目	日 語 導 入	日 語 練 習		日 語 會 話	日 語 導 入		日 語 練 習	日 語 導 入		日 語 導 入	日 語 練 習		日 語 導 入	日 語 練 習	
	担 当	高	董		中 川	高		董	高		高	董		高	高	

② 授業内容

はじめに『日本語かな入門』を使って、ひらがな、カタカナ、発音を指導し、次に『中国人のための初級日本語（上）』を教科書として、文型・語彙等を指導する〔導入〕及びそれらの使い方を練習させる〔練習〕に分かれて授業を行い、『中国人のための初級日本語（上）』の30課すべてを終わった。「導入」の時間のうち、1週間に1時間は練習帳の答え合わせ及び学習文型の実際の用法をビデオを使って見せるのに使った。

週		導入・練習	注
1	10月12日～16日	仮名入門	教室用語
2	19日～23日	仮名入門	『初級』L1L2 23日発音テスト

3	26日～30日	【初級】L 1 L 2 の復習 L 3 L 4	
4	11月 2日～6日	L 5～L 7前半	
5	9日～13日	L 7後半～L 9	
6	16日～20日	L10～L12前半	
7	23日～27日	L12後半～L14	23日テスト (L 1～L10)
8	30日～12月 4日	L15～L17前半	
9	7日～11日	L17後半～L19	
10	14日～18日	L20～L22前半	
11	21日～25日	L22後半～L24	21日テスト (L11～L20)
12	28日～31日	L25～L27前半	元旦1～2日休み
13	1月 4日～8日	L27後半～L28	
14	11日～15日	L29～L30	
15	18日～22日	復習・能力試験	15日能力試験（4級）

③ 試験

発音テスト及び『中国人のための初級日本語（上）』の10課ごとのテストをし、最後に「日本語能力試験」4級を行い、全員合格（6割以上得点）した。

5-2 前期（1999/3～1999/6）

① クラス編成と担当

今年度は進学博士が51名だったため、5クラスのうち3クラスを進学博士のコースに充てることにした。しかし、3月期には〔練習〕を担当できる日本側教師は2名しかおらず、2クラスで行わざるを得なかった。4月からは3クラスで行うことができるようになったため、前期を3月期と4～6月期の2つに期間にわ

けてクラス編成を行った。

・ 3 月期

[導入] は中国人教師が、[練習] は日本人教師が以下の 2 クラスで行った。

1 組：孫長虹・渡部裕子

2 組：高在学・小森和子

[会話] は以下の 4 クラスで行った。

A (12名)、B (14名)、C (12名)、D (12名)：渡部裕子・小森和子

[読解・聴解] は以下の 2 クラスで行った。

A B 合同 (26名)、C D 合同 (24名)：横田淳子

・ 4 月～6 月期

[導入] は 3 月期と同じクラス編成で同じ中国人教師が担当した。

[練習] と [会話] は以下の 3 クラスで行った。

A クラス (16名)：衣川隆生

B クラス (18名)：渡部裕子

C クラス (16名)：小森和子

[読解・聴解] は上記と同じ 3 クラスで行った：横田淳子

1999年3月1日～3日 (特別)

曜日	3月1日(月)				3月2日(火)				3月3日(水)			
時間	12	34	56	7	12	34	56	7	12	34	56	7
1組	オリエンテーション	孫長虹			孫長虹	インタビュアー・作文	インタビュアー・作文	文体活動	孫長虹	渡部裕子	英語	
2組									高在学	高在学	高在学	小森和子

1999年3月4日～4月2日

曜日	月				火				水				木				金					
時間	12	34	56	7	12	34	56	7	12	34	56	7	12	34	56	7	12	34	5	6	7	
1組	孫長虹	渡部裕子	A 渡部		孫長虹	渡部裕子	個人指導	文体活動	孫長虹	渡部裕子	英語		孫長虹	渡部裕子	C 渡部	文体活動	孫長虹	渡部裕子		5	6	7
2組	高在学	小森和子	B 小森		高在学	小森和子	高在学		小森和子	高在学	小森和子		高在学	小森和子	高在学		小森和子	D 小森				

1999年4月5日～6月24日

曜日	月				火				水				木				金				
時間	12	34	56	7	12	34	56	7	12	34	56	7	12	34	56	7	12	34	56	7	
1組	孫長虹	衣川隆生	会話 A 衣川隆生		孫長虹	衣川隆生	個人指導	文体活動	孫長虹	衣川隆生	英語	／個人指導	孫長虹	横田淳子	個人指導	文体活動	孫長虹	衣川隆生		56	7
2組		高在学	渡部裕子			B 渡部裕子				高在学				渡部裕子				高在学			

② 授業内容

初級では『中国人学生のための初級日本語（下）』、中級では『中級日本語』を教科書にして〔導入〕と〔練習〕の授業を行った。

〔導入〕：初級では、文型導入・基礎会話説明

中級では、文型・語句

〔練習〕：初級では、文型練習・応用会話説明

中級では、本文読解・文型練習・語彙

〔会話〕：『中国人学生のための初級日本語（下）』の「談話構造練習」の会話を中心に3月期は小クラスで4回、4～6月期は〔練習〕と同じクラスで6回、計10回行った。

〔読解・聴解〕：

読解では『中国人学生のための初級日本語（上）』『同（下）』の「読み物」を使った。聴解は市販の教材や過去の「日本語能力試験」の問題を使って行った。

〔作文〕：授業時間は設けず、全5回、題を与えて期日までに提出させた。添削後、個人指導の時間を使って指導を行った。また、専門や研究テーマについて書かせたクラスもある。

〔ワープロ指導〕：

5月末から6月初めにかけて、〔会話〕および〔練習〕の時間を使ってABC各クラス2回ずつワープロ指導を行った。指導は専門の教師にきてもらったが、日本語の入力では日本語教師の指導が必要であった。また、指導後、各クラスでコンピュータを使える日を1日ずつ、全体で使える日を2日設けた。

〔個人指導〕：

作文指導や質問に答える個人指導が中心であったが、〔練習〕の時間として利用したり、スピーチをさせたクラスもあった。

	文型導入	文型練習	作文(出題:木)	会話	読解	読解
1	3月1日 L31~ 3月5日 L33	L31~ L32	自己紹介	自己紹介	楽しく聞こうL5 ヤンさん L1	読解 読み物1、2
2	3月8日 L33~ 3月12日 L36	L33~ L35		レストラン・感謝	楽しく聞こうL7 ヤンさんL2	読解 読み物3、4
3	3月15日 L37~ 3月19日 L40	L36~ L39	私の大学	道を尋ねる	楽しく聞こうL15 ヤンさんL3	読解 読み物5、6
4	3月22日 L40~ 3月26日 L43	L39~ L42		病状の説明	楽しく聞こうL9 ヤンさんL4	読解 読み物7、8
5	3月29日 L43~ 4月2日 L46	L42~L44 77/L31-L40(4/2)		4月1日(木)の会話は はなれ、全員で読解と 読解をやる。	楽しく聞こうL16 ヤンさんL5、L6	読解 『読解20のテーマ』 「新幹線通勤」
6	4月5日 L46~ 4月9日 L49	L45~ L47		挨拶	楽しく聞こうL19(2) ヤンさんL7	読解 読み物13
7	4月12日 L49~ 4月16日 L52	L48~ L50	私の好きな所	陳謝	楽しく聞こうL21 ヤンさんL8	読解 読み物14
8	4月19日 L53~ 4月23日 L56	L51~ L52		電話	ニュースで学ぶ日本語1 地震 ヤンさんL9	読解 読み物15
9	4月26日 L56~L58 4月30日 77/L51-L60(4/26)	L53~ L55		依頼	楽しく聞こうL27 ヤンさんL10	読解 読み物16
10	5月3日 L59~ 5月7日 L60	L55~ L57		勧誘	1995年能力試験3級 総問題 ヤンさんL11	読解 読み物17

		文型導入	文型練習	作文(出題:木)	会話	聴解	読解
11	5月10日 ↓ 5月14日	中級L1~5	初級L5.7~ L6.0		初誘	1995年能力試験3級 音声問題	読み物18
12	5月17日 ↓ 5月21日	L5~7 能力試験3級(5/21)	中級L1~ L3	私の専門と研究テーマ	ディスカッション	1996年能力試験3級全部 問題解説	なし
13	5月24日 ↓ 5月28日	初級L5.1-L6.0(5/24) L8~ L9	L3~ L5		ワープロ指導	中間試験解説	読み物19
14	5月31日 ↓ 6月4日	L10~ L12	L5~ L8		ワープロ指導	楽しく聞こう3.1 ヤンさんL12	読み物19
15	6月7日 ↓ 6月11日	L13~ L14	L8~ L11		ワープロ指導	日本の国士 ニエンスで学ぶ日本語22 不正乗車	なし
16	6月14日 ↓ 6月18日	L15~ L16	L11~ L13	指導教官に初めて出す 手紙	スピーチ	野口英世1・2・3 ヤンさんL13	なし
17	6月21日 ↓ 6月24日	L16~ L17 前期期末試験	L13~ L15		なし(練習に振り替え)	なし	なし

答案返却は後期の予定

③ 試験

初級では、10課ごとの復習テストを3回、[導入] または [練習] の時間を使って行った。

中間試験としては、「1998年度日本語能力試験」3級を行い、全員合格（6割以上得点）した。文法・語彙、聴解は100点満点、読解・文法は200点満点で、全部で400点満点である。

平均点：文字・語彙93.2、聴解69.6、読解・文法184.6、総合347.5

期末試験としては、教科書『中級日本語』14課までを範囲に、以下の3種類の試験を昨年度よりも少し量を減らして行った。それぞれ100点満点である。

平均点：聴解78.9、読解89.1、文法93.1、総合261.2

5-3 後期（1999/7～1999/8）

① クラス編成と担当

日本側教師6名のうち3名が前期終了後帰国し、松田、新内、横田の3名で進学博士、修了博士の両コースを担当した。[導入] 担当の中国側教師は進学博士、修了博士とも前期と変わらなかった。

[導入] と [練習] は以下の2クラスで行った。

1組：孫長虹・松田みゆき

2組：高在学・新内明子

[読解・聴解] は上記の2クラスで行った：横田淳子

曜日	月							火							水					木					金										
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	
進学1	日本語Ⅰ	日本語Ⅱ	Aゼミ					日本語Ⅰ	特別講義	A情報処理					日本語Ⅲ	横田淳子	特別講義					日本語Ⅰ	Aゼミ					特別講義	日本語Ⅱ	A情報処理					
進学2	1 孫長虹	2 高在学	1 松田美雪	2 新内明子				1 孫長虹	2 高在学						日本語Ⅲ	横田淳子						1 孫長虹	2 高在学						1 松田美雪	2 新内明子					
修了1	日本語Ⅰ	B情報処理						日本語Ⅱ	Bゼミ					日本語Ⅰ	日本語Ⅱ	B情報処理					日本語Ⅰ	日本語Ⅱ	B情報処理					日本語Ⅲ	横田淳子						
修了2	1 劉桂萍	2 高富					I	1 劉桂萍	2 高富						1 劉桂萍	2 高富						1 劉桂萍	2 高富						1 新内明子	2 松田美雪					

② 授業内容

『中級日本語』を教科書にして〔導入〕と〔練習〕の授業を行った。

〔導入〕：文型・語句

〔練習〕：本文読解・文型練習・語彙

〔読解・聴解〕：

〔練習〕の時間に教科書の本文読解をするため、読解のためには授業時間をあまり使わず、「日本語能力試験」の過去の読解問題を宿題とし次の週に解説する形で授業を進めた。そのかわり聴解にはなるべくたくさんの時間を使い、市販のビデオ、テープ教材や過去の「日本語能力試験」の問題を行った。

③ 試験

終了試験として「日本語能力2級判定試験」を行い、全員合格点（6割以上得点）した。

平均点：文字・語彙84.3、聴解65.3、読解・文法156.9、総合306.5

6 修了博士コース

6-1 予備期（1999/3～1999/4）

① クラス編成と担当

進学博士コースと同様に、学生は3月に入学した段階で、中国側教師によって、年齢、性別、出身地、日本語力などの点でなるべく均一になるように2つの組に分けられた。その結果、1組は24名（女性7名）、2組は23名（女性6名）になった。日本に滞在したことがある学生が何人かいたが、日本で博士号を取得した一人を除き日本語力はそれほど高くなかった。学生の年齢は28歳から35歳までで、専門は文科系6名、理科系41名であった。

〔導入〕と〔練習〕は両方ともに中国人教師が以下の2クラスで行った。

1組：劉桂萍・金英淑

2組：高 富・金英淑

このほかに、それぞれのクラスに〔視聴覚〕と〔練習帳〕のクラスが設けられ、1組の〔視聴覚〕は孫長虹、2組の〔視聴覚〕は高在学が担当した。また、〔練習帳〕はそれぞれの組の〔導入〕担当者が受け持った。

② 授業内容

やり方は進学博士コースと同じであるが、予備期の期間が短いため、『中国人

のための初級日本語（上）の12課まで行った。

後期進学博士コース進捗表

	文型	本文	聴解	読解
1	L18～ 7月12日 ↓ 7月16日	L16～ L17	毎日の聞き取り28、前朝試験解説 1分スピーチ「夏休み中の楽しかった こと・大変だったこと」	能力試験2級90年問題1配布
2	L18～ L19 7月19日 ↓ 7月23日	L17～ L18	毎日の聞き取り30 東京学芸大「私達の日本 2」 ヤンさん 14、15	能力試験2級90年問題1解説 能力試験2級90年問題2、3配 布
3	L19～ 7月26日 ↓ 7月30日	L18～ L19	毎日の聞き取り31 能力試験2級96年問題1 ヤンさん 16、17	能力試験2級90年問題2、3解 説 能力試験2級96年問題1配布
4	L20～ 8月2日 ↓ 8月6日	L19～ L19	毎日の聞き取り32、34 能力試験2級96年問題2前半 ヤンさん 18	能力試験2級96年問題1解説 能力試験2級96年問題2、3配 布
5	L21～ 8月9日 ↓ 8月13日	L20 L21	毎日の聞き取り35、36 ヤンさん19	能力試験2級96年問題2、3解 説
6	2級まとめ 8月16日 ↓ 8月20日 修了試験（2級相当）	2級まとめ	映画鑑賞会「Shall We けん」 (希望者のみ)	
7	8月23日 26日 8月27日 修了試験（1級相当）			

修了博士コース予備期時間割

	月			火			水			木			金		
	12	34	56	12	34	56	12	34	56	12	34	56	12	34	56
一班	日 本 語 導 入	視 聴 覚		日 本 語 練 習	日 本 語 導 入	日 本 語 練 習	日 本 語 導 入	日 本 語 導 入	英 語	日 本 語 練 習	日 本 語 導 入		日 本 語 練 習	日 本 語 導 入	練 習 帳
	劉 桂 萍	孫 長 虹		金 英 淑	劉 桂 萍	金 英 淑	劉 桂 萍	劉 桂 萍		金 英 淑	劉 桂 萍		金 英 淑	劉 桂 萍	劉 桂 萍
二班	日 本 語 導 入	日 本 語 練 習		視 聴 覚	日 本 語 導 入		日 本 語 導 入	日 本 語 練 習	英 語	日 本 語 導 入	日 本 語 練 習	日 本 語 導 入	日 本 語 導 入	練 習 帳	日 本 語 練 習
	高 富	金 英 淑		高 在 学	高 富		高 富	金 英 淑		高 富	金 英 淑	高 富	高 富	高 富	金 英 淑

週		導入・練習	注
1	3月1日～3月5日	仮名入門第一部	初級日本語L1
2	3月8日～3月12日	仮名入門第二部	〃〃L2、L4前半
3	3月15日～3月19日	初級日本語L1～L4 の復習L4後半～L6	
4	3月22日～3月26日	L7～L9前半	
5	3月29日～4月2日	L9後半～L11	L1～L10のテスト

③ 試験

発音テスト及び『中国人のための初級日本語（上）』の10課までのテストを行った。

6-2 前期（1999/4～1999/6）

① クラス編成と担当

[導入] は中国人教師が、[練習] は日本人教師が以下の2クラスで行った。

1組：劉桂萍・新内明子

2組：高 富・松田みゆき

[会話] は以下の4クラスで行った。

A (12名)、B (12名)、C (12名)、D (11名)：新内明子・松田みゆき

[読解・聴解] は以下の2クラスで行った。

A B合同 (24名)、C D合同 (23名)：横田淳子

② 授業内容

『中国人学生のための初級日本語（上）』『同（下）』の2冊を教科書にして [導入] と [練習] の授業を行った。

[導入]：文型導入・基礎会話説明

省略部分のリストに従って、文型を取捨選択して行った。

[練習]：文型練習・応用会話説明

[会話]：教科書から離れて、日本の生活に必要な会話トピックを選んで行った。

[読解・聴解]：

読解では『中国人学生のための初級日本語（上）』『同（下）』の読み物を使い、聴解は市販のビデオ、音声テープ教材や過去の「日本語能力試験」の問題を使って行った。

[作文]：授業時間は設けず、全5回、題を与えて期日までに提出させた。

「だ／である」体では書かせなかったが、「専門日本語」が始まる前に練習させたほうがよかった。

「指導教官への手紙」は夏休みの宿題とした。

[ワープロ指導]：

5月末から6月初めにかけて、[会話] および [個人指導] の時間を使って各クラス2回ずつワープロ指導を行った。指導は専門の教師

にきてもらったが、日本語の入力では日本語教師の指導が必要であった。また、指導後、各クラスでコンピュータを使える日を1日ずつ、全体で使える日を2日設けた。

[個人指導]：

主に作文指導と学生からの質問に当てた。

③ 試験

10課ごとの復習テストを3回、[導入] または [練習] の時間を使って行った。中間試験としては、「1998年度日本語能力試験」4級を行い・全員合格(6割以上得点)した。

平均点：文字・語彙94.4、聴解75.9、読解・文法182.0、総合352.3

期末試験としては、41課から48課までの復習テストを行った。

修了博士前期時間割

1999年 4月5日 1999年 4月6日～ 6月24日
(特別)

曜日	(月)		火				水			木				金			
	12	3456	12	34	56	7	12	34	56	12	34	56	7	12	34	567	
1組	劉桂萍	インタビュ ー・作文	劉桂萍	新内明子	A 新内	個人指導	文体活動	新内明子	劉桂萍	英語／個人指導	劉桂萍	新内明子	C 新内	文体活動	劉桂萍	新内明子	近現代史
2組	高富		高富	松田美雪	B 松田			高富	高富		新内明子	高富			松田美雪	D 松田	

6-3 後期(1999/7～1999/8)

① クラス編成⁽⁸⁾と担当

[導入] は中国人教師が、[練習] は日本人教師が前期に続き以下の2クラスで行った。

1組：劉桂萍・新内明子

2組：高 富・松田みゆき

[読解・聴解] も上記の2クラスで行った：横田淳子

修了博士コース前期進捗度表

	文型導入	文型練習	作文 (出題:水)	会話	聴解	読解
1	4月5日 ↓ 4月9日 L13~ L16	自己紹介 L12~ L14	自己紹介	初対面の挨拶	ヤンさん L1 初級聴解1~4	読み物1
2	4月12日 ↓ 4月16日 L16~ L19	L15~ L18	私のふるさと・今昔	自己紹介	ヤンさん L2 楽しく聞こう15-1	読み物2
3	4月19日 ↓ 4月23日 L20~ L23	L18~ L21		電話による約束	ヤンさん L3 毎日の聞き取り3	読み物3
4	4月26日 ↓ 4月30日 L21-20 (4/26) L23~ L26	L22~ L25		道を尋ねる (歌) 世界は二人のた めに	ヤンさん L5 毎日の聞き取り4 (A,Bクラス)	読み物4
5	5月3日 ↓ 5月7日 L27~ L30	L25~ L28	将来の夢 (5/4 4)	なし	ヤンさん L5 毎日の聞き取り4 (C,Dクラス)	読み物4
6	5月10日 ↓ 5月14日 L30~ L33	L29~ L32		お祝を述べる プレゼントの渡し方、 受け取り方	ヤンさん L6 96年能力試験4級 (問題1)	読み物5
7	5月17日 ↓ 5月21日 L31-30 (5/17) L34~ L36	L32~ L35		郵便局で、銀行で (歌) 北国の春	ヤンさん L7 96年能力試験4級 (問題2)	読み物6
8	5月24日 ↓ 5月28日 L37~ L39 (5/27)	L36~ L38	余暇の過ごし方 (5/24)	なし	(5,24合同クラス) 97年能力試験4級全部 ヤンさん L7	(5,27合同クラス) 98年能力試験4級全部
9	5月31日 ↓ 6月4日 L40~ L42	L39~ L41		日本の家の訪問 (A,Bクラス) (歌) 花	ヤンさん L8 98年能力試験4級解説	読み物7
10	6月7日 ↓ 6月11日 L41-40 (6/7) L43~ L45	L42~ L44		日本の家の訪問 (C,Dクラス) (歌) 花	ヤンさん L8 楽しく聞こう9	読み物8
11	6月14日 ↓ 6月18日 L46~ L48	L45~ L47		意見の述べ方と討論	ヤンさん L9 楽しく聞こう16	読み物10
12	6月21日 ↓ 6月24日 L49~ L50 テストL41~48	L48~ L49	指導教官への手紙 私の大学生活 (夏休みの宿題)	なし	なし	なし

② 授業内容

前期に引き続き、『中国人学生のための初級日本語（下）』を教科書にして〔導入〕と〔練習〕の授業を行った。分担も前期と同じである。

〔読解・聴解〕も基本的には前期の続きを行った。読解では『中国人学生のための初級日本語（下）』の読み物を使い、読解力をつけると同時に日本事情的知識を伝えることに努め、教師の話を聞く力を養成した。聴解は市販のビデオ・テープ教材を使って行った。「日本語能力試験」3級の過去の問題は中国側〔導入〕担当教師が週1回行った。

		文型導入	文型練習	聴解	読解
1	7月12日	L50～	L49～	ヤンさん L9	読み物13
	7月16日	L52	L51	毎日に聞き取り初級13	
2	7月19日	L52～	L51～	ヤンさん、L10 阪神大震災スライド	読み物15
	7月23日	L54	L53	毎日に聞き取り初級17	
3	7月26日	L55～	L54～	ヤンさん L4	読み物16
	7月30日	L56	L55	毎日に聞き取り初級16	
4	8月2日	L57～	L56～	ヤンさん L11、12	読み物17
	8月6日	L58	L57	毎日に聞き取り初級31	
5	8月9日	L59～	L58～	ヤンさん L12、13	読み物18
	8月13日	L60	L59	毎日に聞き取り初級32	
6	8月16日 18日 19日	復習 3級試験 復習テスト(51-60)	L60	なし	なし
7	8月23日 8月27日	追試3級試験 論文発表会 修了式			

③ 試験

10課ごとの復習テストを1回行った。

終了試験としては、「日本語能力3級判定試験」を行い、全員合格（6割以上得点）した。

平均点：文字・語彙94.9、聴解64.1、読解・文法182.9、総合341.9

7 今後の課題

博士プログラムの中に進学博士コースと修了博士コースの二つが設定され、シラバス、カリキュラム、教科書、試験などが現在の形になって今年で3年目である。細かい点ではいろいろ問題もあるが、このプログラムの人的時間的制約を考

えると大きく変更する必要はないと考える。また、「基礎日本語」教育と「専門日本語」教育の連携は検討しなければならない大きな課題であるが、毎年派遣される担当教師が異なる上に、プログラム自体に時間的な余裕がない現状ではそれぞれの立場で教育をしていく現在のやり方しかないように思える。ここでは「基礎日本語」教育について以下2、3の点を課題として挙げておくにとどめる。

7-1 クラス編成

今年には1995年に日中政府間で合意された「日中教育交流5ヶ年計画（1996-2000）」の4年目である。「計画」では進学博士を毎年40名ずつ派遣し、修了博士は96年度の44名から毎年4名ずつ増やし、2000年には60名派遣することになっている。したがって、今年の在籍予定者は進学博士40名、修了博士56名であった。しかし、今年には予定の学生数と異なり、進学博士は51名、修了博士は47名（後期になって1名辞退したため、最終的には46名）となった。

従来は、進学博士は2クラス、修了博士は進学博士よりも人数が多いために3クラスで行い、少なくとも前期には1クラスの人数は20名以下に保たれていた。しかし、今年にはほぼ同数であったため、両方とも〔導入〕は2クラスとなり、例年より学生数が増加したにもかかわらず博士班に携わる中国側の教師は1名減り、4名となった。その結果、〔導入〕の1クラスの学生数はすべて20名以上となった。

日本人教師が担当する〔練習〕の授業は〔導入〕で学んだ文型その他を実際に使う練習をする授業で、学生数が多くなると学生一人当たりの発話量が少なくなり、十分な練習ができなくなる。今年は進学博士の数が多かったため、前期のはじめという重要な時期にもかかわらず、3月期には1クラス25名前後で練習せざるを得なかった。進学博士の数が修了博士より多い今年のような状況が続くのであれば、3月期から少なくとも〔練習〕の授業は3クラスで行えるように、2月末に団長を含め4名の教師を日本から派遣する必要がある。

また、4月から6月の前期授業では、団長を除く5名の日本人教師がクラスを担当するが、今年は進学博士コースを3クラス編成にしたため、修了博士コースは2クラス編成にせざるを得なかった。修了博士全体の学生数は去年より2名減っただけで3クラスから2クラスになったため、〔練習〕や〔作文〕では効果的な授業を行うのが困難であった。時間割上の工夫で〔会話〕は12、3名の人数で行うようにしたが、例年より学生一人当たりの発話の機会は減ったものと思われる。

る。[練習]は1クラス15、6名となるようなクラス編成が望ましい。今後も学生数が増加していくならば、クラス編成を変えていかざるを得ず、それにとまって派遣教師の数や派遣時期を今一度見直す必要がでてくるであろう。

7-2 教材

昨年度の提言に基づき、2つのコースとも『中国人のための初級日本語（上）』『同（下）』の文型をそれぞれいくらか削除して教えた。しかし、それでも[練習]の時間では教科書の「応用会話」の分量が多すぎ、説明に追われ練習までする時間がとれなかったという授業担当者の声が強かった。今後、教科書作成者の意図を十分踏まえた上で、事前研究会等で「応用会話」の内容も検討し、取捨選択する必要がある。

しかし、これはこのプログラムの到達目標をどこに設定するかという根本的な問題と深く関連している。学習者のニーズは、進学博士であるか修了博士であるかのほかに、家族同伴か否か、留学生寮に住むか一般アパートに住むか、指導教官の求める日本語のレベルがどの程度のものかなど個人的言語活動の環境からくるさまざまな要因によって異なっている。このような状況ではプログラムの目標をあらかじめ細かく固定的に設定することは現実的ではない。毎年、前年度の反省や提言を参考に、学習者のニーズの最大公約数を汲み取る方向で教科書の内容を取捨選択していく方法が適当であると考える。

授業が始まると副教材を検討する時間はほとんどない。過去20年間の副教材がビデオ、音声テープ、印刷教材と多種あるが、教師室のどの場所に何があるのかを把握するのに最初の数日は費やされる。現在ある教材を有効に活用するためには、何がどこにあるかを十分に把握し、必要な時に必要な教材を使えるような状況にしておかなければならない。

今回、教師室にある図書の整理を行い、辞典類（日本語、中国語、英語、人名、アクセント、用例、用法、その他）、研究書、参考書、日本語教材、事典・年表・地図類などに分類しリストを作成するとともに、辞書の棚、教材の棚、参考書の棚というふうに関連しやすいよう配列も変えた。何冊もある辞書類は中国側の教師室に置いて活用していただくこととした。

音声テープやビデオも整理し、リストを作成、専用の戸棚（基礎日本語教師室に新しく設置）に保管することとした。しかし、十分な時間がなく、既存の音声テープやビデオがどの課で役に立つかを検討し、配列し直すことはできなかった。

長春に到着してから〔練習〕パートで使用する副教材を検討する時間はないので、日本にいる間に事前研究会の時にでも、今回作成したリストを参考に検討し準備することが望まれる。

7-3 進学指導

基礎日本語教育とは直接には関係ないことであるが、実際に基礎日本語教師団の仕事として欠かせないことに学生の日本留学先大学決定に関する事務連絡等がある。具体的には、まず、学生に希望大学を決めて受け入れ指導教官と連絡を密にとるように指示し、6月前期終了前に学生の最終希望大学・指導教官一覧表を作成して文部省および専門日本語教師団に送付することがある。文部省ではそれをもとに日本国内の各国立大学に連絡を取り、受け入れを確認する作業に入る。専門日本語教師団では専門日本語教育のゼミで受け持つことになる学生の指導教官を把握してゼミの準備（指導教官の論文を用意する等）を日本で行う。

7月、8月には文部省留学生課からの学生に対する問い合わせを取り次ぐ作業が多くなる。受け入れ内諾書の有無にかかわらず、大学内部の基準に従って受け入れが断られることや専門との関係で受け入れが許可されない場合があるからである。そのようなときは次の受け入れ大学を探さなければならない。

このような仕事に関して、予備学校側は中国の教育部と日本の文部省の仕事であり、教師の仕事ではないという認識である。また、専門日本語教師団は学生の進学に関することにはタッチしないという取り決めがあるとのことでやはり関わらない。しかし、現実問題として、文部省からの学生に対する問い合わせを学生に伝え、学生の答えや希望を文部省に伝える仕事は必要である。進学・修了博士すべての学生を知っているのは時間割の関係上、基礎日本語教師団の団長しかいないので、上記のような仕事は基礎日本語教師団団長が行わざるを得ないであろう。実際、一昨年度も昨年度も基礎日本語教師団団長が行ってきたが、ガイドブック等書かれていないために、この仕事に対する他の教師の理解が不十分で協力関係が取りにくいということがあった。今後は基礎日本語教師団団長の仕事としてきちんと位置付け、他の教師の協力も得やすい環境を作ることが必要である。

注

(1) 過去の報告書を見ると同一機関に対していろいろな名称が使われているが、

中国の正式名は「中国赴日本国留学生予備学校」である。

- (2) 1999年8月、20周年を記念して作成されたパンフレット『中国赴日本国留学生予備学校』 p 1
- (3) 1983年（この時代は理科系の学生しかいなかった）には『中国人（理科系）学生のための日本語』を作成、1996年には『中国人学生のための初級日本語（上）』および『同（下）』を作成した。『中国人（理科系）学生のための日本語』に関しては、大木（1983）参照。なお、『中国人学生のための初級日本語』は『実力日本語』とタイトルを変えて1999年夏から順次市販されている。
- (4) 松岡（1982）、大木（1983）、田山（1995）、猪崎（1995）、柏崎（1998）、伊丹（1999）参照。
- (5) 1999年度の中国側スタッフの陣容は1998年度とほぼ同じである。伊丹（1998）p120に詳しい。
- (6) 「専門日本語」教師団は東京工業大学が母体となって組織され、全員文部省より派遣される。
- (7) 助手の主な任務は予備学校と日本側教師との通訳・連絡で、直接には授業を担当していないが、今年度は授業のためのプリント準備や終了試験の試験監督などを手伝ってもらった。
- (8) 時間割は進学博士コースと共通のため、進学博士コース後期時間割を参照。

参考文献

- 猪崎保子（1995）「中国・東北師範大学内『赴日留学生予備学校』の予備教育——『博士班・1994年度前期』の授業について——」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』21号
- 伊丹千恵（1999）「中国赴日本国留学生予備学校における基礎日本語教育（1998年度）の現状と課題」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』25号
- 大木隆二（1983）「テキスト『中国人（理科系）学生のための日本語』をめぐって—新教材作成から現地教育の実施まで—」『日本語学校論集』10号
- 柏崎雅世（1998）「中国赴日本国留学生予備学校における基礎日本語教育——1997年度報告——」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』24号
- 田山のり子（1995）「中国赴日留学生予備学校における日本語教育——1993年度報告——」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』21号

中国赴日本国留学生予備学校編（1999）『中国赴日本国留学生予備学校』
中国赴日本国留学生予備学校校友会編（1999）『慶祝建校二十周年1979-1999』
東京外国語大学留学生日本語教育センター編著（1999）『実力日本語』凡人社
松岡 弘（1982）「中国赴日留学生予備学校における日本語教育」『日本語学校論
集』9号

The Japanese Language Education for Doctoral Students in Preparatory School for Chinese Students to Japan

YOKOTA Atsuko

This paper reports the Japanese language education held in the Preparatory School for Chinese Students to Japan during the period from 1998 fall to 1999 summer. The program has two courses, namely, an 11-month doctoral course and a 6-month post-doctoral course. This year is the third year since the syllabus, curriculum, textbooks and examinations were fixed for these two courses. We found that an overall change was not necessary although some modifications may be helpful to improve their effectiveness.

This year, the students enrolled in the doctoral course were 51 while those in the post-doctoral course 46. These figures were different from the original plan, which had been 40 and 56 respectively. As a result, the organization of classes for doctoral course became quite irregular, namely, two classes were formed for introducing sentence patterns and vocabulary, and three classes for practicing. The class size, classroom hours and the teachers were forced to be changed four times in 11 months because of the availability of the teachers.

Since the Japanese teachers are sent to China in order to meet the needs of the courses planned beforehand, it is desirable that the original framework is maintained. It is also suggested that the preparations of teaching materials other than the textbooks should be done by the Japanese teaching staff before they go to China, because after their arrival in

China there is no time to look for suitable teaching materials. Audio and video tapes are found to be quite useful for introducing situations for the sentence patterns which had already been learned by the students.